

新興国レポート

11月インドCPI上昇率 5ヵ月連続6%を下回る

主要新興国の中でインドのCPIは比較的落ち着いた動き

- ▶ インドの11月CPI（消費者物価指数）は前年同月比+4.9%となった。上昇幅は10月の同+4.5%より拡大するも、RBI（インド準備銀行）の政策目標の上限6%を5ヵ月連続で下回った。
- ▶ CPI上昇率が6%を下回ったこと等を受け、CPI発表当日のインド10年国債金利は落ち着いた動きとなった。

(1) 11月インドCPI上昇率は前月を上回る

- インド統計局が12月13日発表した2021年11月のCPIは前年同月比+4.9%と、上昇幅は10月の同+4.5%から拡大したものの、RBIの政策目標（2～6%）の上限を5ヵ月連続で下回りました。資源価格の高騰や急激な景気回復を受けた人手不足による供給網の混乱等を背景に、多くの新興国で物価上昇が勢いを増しつつある中、インドの物価は比較的落ち着いた動きとなっています（図表1）。
- 天候不順による食用油価格の高止まりや果物の値上がり等を背景に、全体の約5割を占める飲食料品価格が同+2.6%と、10月の同+1.8%から拡大したことが11月CPIを押し上げました。一方、約1割を占める光熱費は、国内消費量の約8割を輸入に頼る原油の価格下落（前月比）や、インド政府がガソリンと軽油に課している燃料税を引き下げたこと等により同+13.3%と10月の同+14.3%から低下し、CPIの上昇を抑えました（図表2）。

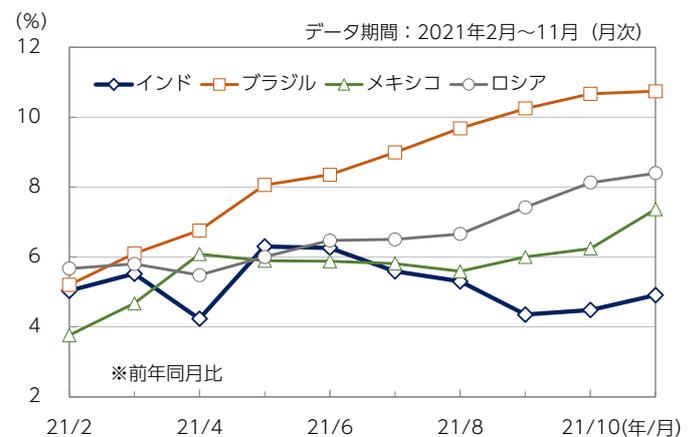
(2) RBIは10～12月期CPI見通しを上昇修正

- RBIは12月8日の金融政策決定会合で、2021年10～12月期のCPI上昇率見通しを資源高の影響等を考慮し、前回（10月）会合の前年同期比+4.5%から同+5.1%に上方修正しました。尚、2021年度（21年4月～22年3月）については前回見通しの前年度比+5.3%を据え置き、RBIの政策目標の上限を下回るとの見方を維持しました。

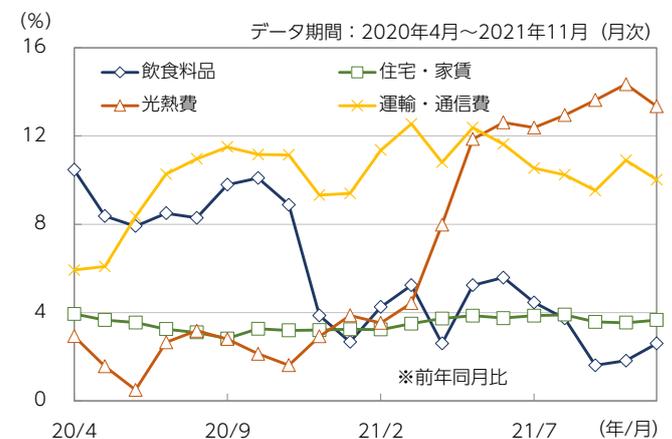
(3) インド10年国債金利への影響は限定的

- 11月のCPI上昇率は10月より拡大したものの、CPI発表日当日のインド10年国債金利は落ち着いた動きとなりました（図表3）。RBIの政策目標の上限を5ヵ月連続で下回ったことや、RBIが12月の会合で2021年度の物価見通しを据え置いたこと等が影響しているものと思われます。

図表1：インド及び主要新興国のCPIの推移



図表2：主要品目別CPIの推移



図表3：インド10年国債金利の推移



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>